

**HAND WIPER**

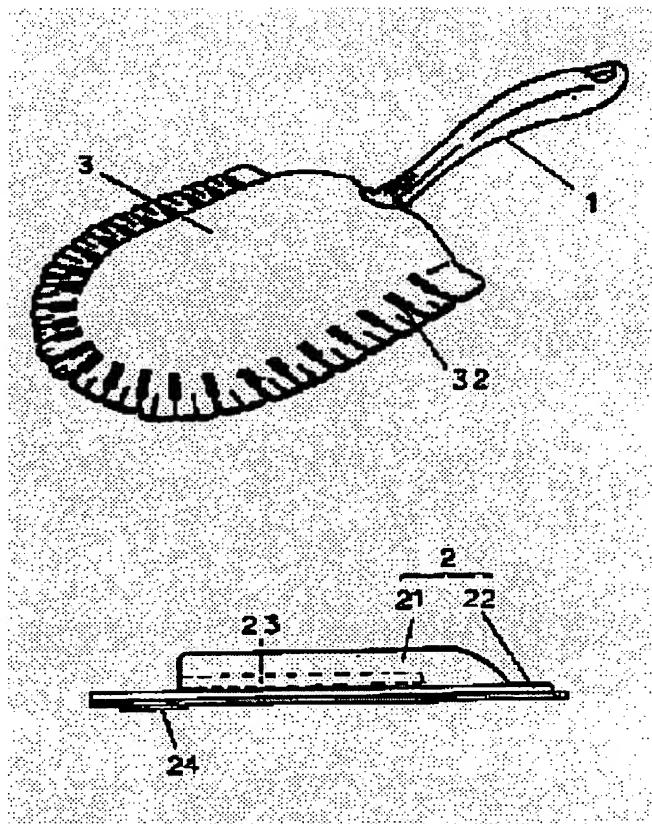
**Patent number:** JP2000083883  
**Publication date:** 2000-03-28  
**Inventor:** OKUDA KOJI  
**Applicant:** SEKISUI JUSHI CO LTD  
**Classification:**  
- **International:** A47L13/20; A47L13/16  
- **European:**  
**Application number:** JP19980255254 19980909  
**Priority number(s):**

Report a data error here

**Abstract of JP2000083883**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To wipe easily dust in the depth by inserting the thin flexible portion of the head deeply into the depth of a cleaned portion no matter how it is small by forming a handle of a grip and a supporting portion and forming the head of the body portion in the center and the thin flexible portion in the periphery.

**SOLUTION:** The hand wiper is composed of a handle 1, a head 2 and a cleaning cloth 3. And the head 2 is formed of the body portion 21 in the center and the thin flexible portion 22 in the periphery. A fitting and insertion portion 23 is formed in the body portion 21, and the supporting portion 12 of the handle 1 is fitted into this fitting and insertion portion 23. And the body portion 21 and the thin flexible portion 22 are made of a synthetic resin whose Rockwell C hardness is 65 or higher. An engagement portion 24 is formed in a part of the bottom of the body portion 21. In addition, a cleaning cloth 3 is formed of a two-ply cloth piece cut into a U shape and a fastening portion 32 expanding radially with the exception of the insertion portion and reaching the ends of the cloth piece, thereby wiping dust in the back of a small clearance.



Data supplied from the esp@cenet database - Patent Abstracts of Japan

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-83883  
(P2000-83883A)

(43) 公開日 平成12年3月28日 (2000.3.28)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 L 13/20		A 4 7 L 13/20	B 3 B 0 7 4
13/16		13/16	A

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-255254

(22) 出願日 平成10年9月9日 (1998.9.9)

(71) 出願人 000002462

積水樹脂株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72) 発明者 奥田 浩司

大阪府枚方市楠葉丘1-44-10

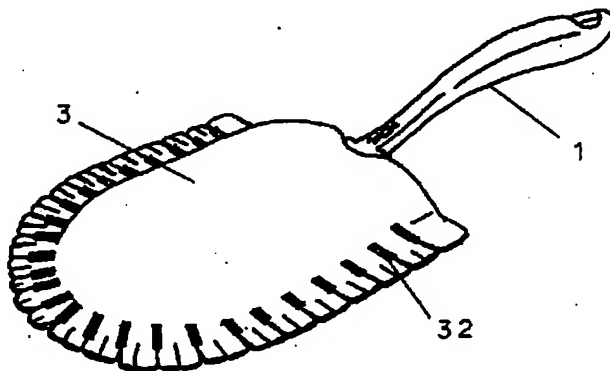
Fターム (参考) 3B074 AA01 AA02 AA07 AA08 AB03  
DD03 EE01

(54) 【発明の名称】 ハンドワイパー

(57) 【要約】

【課題】 柄の先端部に清掃布が装着されるヘッド部を備えた清掃具であって、該ヘッド部に清掃布を装着して清掃する場合、狭い隙間でもヘッド部の先端が支えることなく、奥の方の埃等がとれるハンドワイパーを提供する。

【解決手段】 本発明ハンドワイパーは、柄、ヘッド部および清掃布とからなり、ヘッド部は中央の本体部の周辺に薄肉の可撓性部を形成することにより解決した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 柄、ヘッド部および清掃布とからなり、柄は把持部と支持部とからなり、ヘッド部は中央の本体部とその周辺に形成された薄肉の可撓性部とからなり、本体部には柄が挿入可能な嵌挿部が形成され、該嵌挿部に柄の支持部が嵌挿されてなるハンドワイパー。

【請求項2】 ヘッド部のC硬度が65以上となされた請求項1記載のハンドワイパー。

【請求項3】 清掃布はほぼU字形に裁断された二枚重ねの布片からなり、該布片の周辺部には挿入部分を除いて放射状に広がりと共に布片の端部に達する固着部が形成されてなる請求項1または請求項2記載のハンドワイパー。

【請求項4】 清掃布の固着部が融着により形成されてなる請求項1、請求項2または請求項3記載のハンドワイパー。

【請求項5】 ヘッド部中央の本体部の底面の一部に係止部が形成され、該係止部にはヘッド部に被覆された清掃布の端がヘッド部底面より僅かに盛り上がるように係止されてなる請求項1、請求項2、請求項3または請求項4記載のハンドワイパー。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は家具やOA機器、ピアノ等の清掃に使用されるハンドワイパーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、例えば登録実用新案第3034285号公報に、柄の先端部に清掃布が装着されるヘッド部を備えた清掃具であって、該ヘッド部先端が底面に對し鋭角の傾斜面となされた清掃具が提案されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながらかかる清掃具はヘッド部に清掃布を装着して清掃する場合、狭い隙間ではヘッド部の先端が支えて奥まで入らず、奥の方の埃等がとれないという欠点がある。

【0004】そこで本発明者はかかる従来の欠点に鑑み鋭意研究の結果、ヘッド部の周辺に薄肉の可撓性部を形成することにより、従来の欠点の解消に成功し本発明を完成するに至ったのである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明ハンドワイパーは、柄、ヘッド部および清掃布とからなり、柄は把持部と支持部とからなり、ヘッド部は中央の本体部とその周辺に形成された薄肉の可撓性部とからなり、本体部には柄が挿入可能な嵌挿部が形成され、該嵌挿部に柄の支持部が嵌挿されてなるものである。

【0006】また本発明ハンドワイパーは、ヘッド部のC硬度が65以上となされたものである。

【0007】さらに本発明ハンドワイパーは、清掃布が

ほぼU字形に裁断された二枚重ねの布片からなり、該布片の周辺部には挿入部分を除いて放射状に広がりと共に布片の端部に達する固着部が形成されてなるものである。

【0008】さらにまた本発明ハンドワイパーは、ヘッド部中央の本体部の底面の一部に係止部が形成され、該係止部にはヘッド部に被覆された清掃布の端がヘッド部底面より僅かに盛り上がるように係止されてなるものである。

【0009】

【実施例】以下本発明の実施例について詳述する。図1において、1は柄、2ヘッド部は、3は清掃布である。

【0010】柄1は把持部11と支持部12とからなる。把持部11は硬質の合成樹脂からなり、握るのに適した形状となされ先端が下方に湾曲されている。支持部12は把持部11先端から前方にほぼ水平に突出された扁平板状となされており、把持部11と同様の硬質の合成樹脂からなる。

【0011】ヘッド部2は中央の本体部21とその周辺に形成された薄肉の可撓性部22とからなる。本体部21には柄1が挿入可能な嵌挿部23が形成され、該嵌挿部23に柄1の支持部12が嵌挿される。該ヘッド部2は本体部21、可撓性部22共にC硬度が65以上となされた合成樹脂で作製されている。またヘッド部2中央の本体部21の底面の一部に係止部24が形成されている。該係止部24としては、例えば面ファスナー、粘着テープ、粘着剤塗布面、クリップ等が挙げられる。

【0012】清掃布3はほぼU字形に裁断された二枚重ねの布片31からなり、該布片31の周辺部には挿入部分33を除いて放射状に広がりと共に布片の端部に達する固着部32が形成されている。布片31は天然繊維、合成繊維等の織布、不織布であってもよいし、紙であってもよい。また二枚重ねの布片31は固着部32により一体化されている。該固着部32は布片31の周辺部に放射状に広がりと共に布片31の端部に至る長さとなされ、かつ挿入部分33は除かれている。

【0013】さらに固着部32の固着手段としては接着、縫着の他、布片31が合成繊維の場合は加熱融着されてもよい。さらにまた隣接する固着部32間の間隔は5～30mm程度であればよい。また隣接する固着部32間に切り込み34が設けられていると清掃布3の柔軟性が増加されて好ましい。さらにまた、清掃布3はヘッド部2底面の係止部24に係止されるようになされているが、その場合係止部24上の清掃布3が僅かに盛り上がるようになされていると清掃のたびに該部分の清掃布3が係止部24に押しつけられ清掃中に清掃布3がヘッド部2からはずれるようなことがない。

【0014】

【発明の効果】以上詳述した如く、本発明ハンドワイパーは柄、ヘッド部および清掃布とからなり、柄は把持部

と支持部とからなるとともに、ヘッド部が中央の本体部とその周辺に形成された薄肉の可撓性部とからなるので、狭い隙間でもヘッド部の薄肉可撓性部が奥まで入り、奥の方の埃等も容易に拭きとることができる。

【0015】また本発明ハンドワイパーは、ヘッド部のC硬度が65以上となされた場合は可撓性部が薄肉であっても腰があり、清掃布を保持することができる。

【0016】さらに本発明ハンドワイパーは、清掃布がほぼU字形に裁断された二枚重ねの布片からなり、該布片の周辺部には挿入部分を除いて放射状に広がると共に布片の端部に達する固着部が形成されている場合は清掃布をヘッド部に装着した際に清掃布の周辺部に腰が生じ、ヘッド部を持ち上げても清掃布の周辺部が垂れ下がりがたく清掃が容易となり好ましい。

【0017】さらにまた本発明ハンドワイパーは、清掃布の固着部が融着により形成されている場合は清掃布をヘッド部に装着した際に清掃布の周辺部の腰が一層しっかりし、清掃が容易となる。

【0018】さらにまた本発明ハンドワイパーは、ヘッド部中央の本体部の底面の一部に係止部が形成され、該係止部にはヘッド部に被覆された清掃布の端がヘッド部底面より僅かに盛り上がるように係止されている場合は、清掃の度に該部分の清掃布が係止部に押しつけられ、清掃中に清掃布がヘッド部からはずれることがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明ハンドワイパーの一例の斜視図である。

【図2】本発明ハンドワイパーに使用される柄の一例を示す斜視図である。

【図3】本発明ハンドワイパーに使用されるヘッド部の一例を示す斜視図である。

【図4】本発明ハンドワイパーに使用されるヘッド部の一例を示す側面図である。

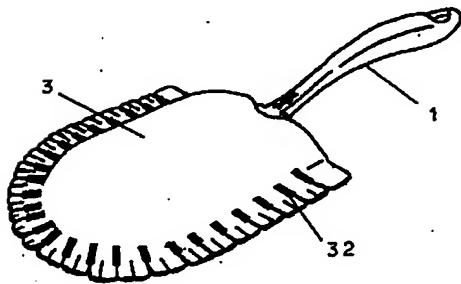
【図5】本発明ハンドワイパーに使用されるヘッド部の一例の底面斜視図である。

【図6】本発明ハンドワイパーに使用される清掃布の一例を示す斜視図である。

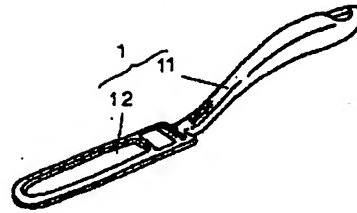
【符号の説明】

- 1 柄
- 11 把持部
- 12 支持部
- 2 ヘッド部
- 21 本体部
- 22 可撓性部
- 23 挿入部
- 24 係止部
- 3 清掃布
- 31 布片
- 32 固着部
- 33 挿入部分
- 34 切込み

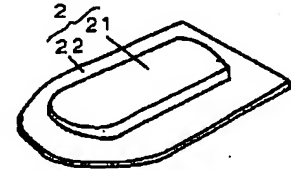
【図1】



【図2】

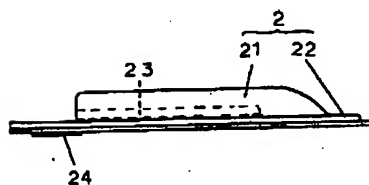


【図3】



【図6】

【図4】



【図5】

